

5歳児 I期（4月～5月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に自分からかかわり、いろいろな遊びに取り組む。 ・自分のやりたい遊びをしたり、友達や保育者とのかかわりを楽しんだりしながらクラスのつながりを感じる。 ・年長児としての自覚をもち、生活の仕方が分かり、すすんで行く。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物や自然現象に関心や親しみをもち、考える、試す、自然を取り入れて遊ぶなどする。 ・戸外の自然に接し、その美しさや季節の変化に興味をもつ。 ・イメージに合う材料や用具を選び、場の構成の仕方を工夫して遊びを楽しむ。 ・砂や泥や水などの感触を楽しんだり、特性に気付いて試したりする。 ・様々な行事などを通して、国旗に親しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に対して、自分の思いや考えを自分なりの言葉で伝えようとする。 ・保育者や友達などに自分から挨拶をする。 ・身近な出来事について、感じたことや不思議に思ったことを言葉で表現する。 ・美しいものや心を動かされる出来事に会い、感じたことやイメージしたことを表現することを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・体で感じたリズムや自分たちで考えた動きを伸び伸びと表現する。 ・新しい素材や教材を使い、考えたことを自分なりに作ったり描いたりして表現することを楽しむ。 ・友達と一緒に、遊びに必要なものを自分なりに工夫して作ることを楽しむ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・年長になったことを喜び合い、友達と一緒に遊ぶ楽しさや友達とのつながりを感じる。 ・友達の考えを聞いたり、自分の考えや発見などを話したりして、伝えるうれしさを感じる。 ・うまくいかないことを通して、友達の考えや提案に気付き、受け止めようとする。 ・友達と一緒に最後まで活動する喜びを味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを伝えたり、相手の話を聞いたりする。 ・年下の子供に対して親しみの気持ちをもって接したり、世話をしたりする中で、年長児としての自覚をもつ。 ・友達の動きや言葉を感じ取りながら行動する。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活の中でのきまりの必要性を感じ、保育者や友達と一緒につくる。 ・友達とのかかわりの中でルールを理解し、守って遊ぶ楽しさを味わう。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱など、自分で気付いて調整する。 ・手洗いやうがいなど、必要に応じて自分から行う。 ・新しい場での生活の仕方や片付け方を知ったり、1日の園生活の流れが分かって行動したりする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで戸外に出て、友達と体を動かして遊ぶ心地よさやルールのある遊びの楽しさを感じる。 ・新しい遊具にかかわりながら使い方を理解し、安全に使おうとする。

<指導例>

- ◇ **年長さんになったよ**
進級の喜びを味わう。

みんなで作ったこいのぼり

一人一人が作ったものを合わせ、クラスで一つの大きなこいのぼりを作る。園庭に飾ることで進級の喜びや年長になった自覚をもてるようにする。

<援助のポイント>

- ・年長になり、張り切っている気持ちや、役に立ちたい気持ちを認めることにより、進級した喜びを十分に味わわせ、自信をもって行動できるようにする。

<家庭との連携>

- ・進級による喜びや不安に対して、保護者の思いに共感したり励ましたりして、一緒に子供を支えていくようにする。
- ・1年間の指導の概要や小学校との交流などの予定を伝え、年長の1年間に見通しをもって過ごせるようにする。

環境の構成

- ◆ 生活の場を自分たちで整えていけるような機会の設定や物の準備をする。
 - ・ 幼稚園内でのルール（遊具や用具の扱い方など）の確認、積木や製作コーナーの置き場所を決めること、自分たちでできると考えたこと（飼育動物の世話、昼食時の挨拶、昼食後の保育室の掃除など）に取り組む時間を設ける。
 - ・ 必要な用具などを見えやすい所に置いておく。
- ◆ 年下の子供の気持ちを考えたり自分たちの経験を振り返ったりして、自分ができることを考え、実際に接する機会を設ける。（朝の支度や遊びの片付けの手伝い、園内巡りなど）

子供の姿

「もう、年長だもん」

保育者が「うさぎの世話をしようかな」とつぶやくと近くにいた子供が「手伝ってあげようか」「私もやりたい」と言ってくる。「できるかな」と保育者が問い掛けると「(前年度の)年長さんに頼まれたからね。もう年長だもん」と張り切って取り組む。「私もやらせて」とその様子を見て取り組む子供が増えていく。また、「こうやるんだよね」と友達同士で確認したり教え合ったりする様子が見られる。

「年少さん大丈夫かな」

登園後不安で泣き続けている子供の様子をしばらく見ていた年長児がそばに近寄り、「大丈夫だよ」「幼稚園、楽しいからね」と頭をなでたり、「これで遊んでいいよ」と砂場の道具を持ってきて、その子供の前に置いたりする。相手の気持ちを考えて自分なりに言葉を掛けたり行動したりする姿が見られる。

「生活のルールをつくっていく」

年長児になって使えるようになった大型積木。大きくて一人で運ぶと危ないことに気付く、「二人なら運べるね」「これなら大丈夫」と二人で運ぶ。クラスでも取り上げて話したところ「二人で運ぶこと」が約束になる。遊びの中や片付けの際には「一緒に運ぼう」と友達に声を掛けて運んだり片付けたりする。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★飼育動物の動きや状態などに気付いたり親しみを感じたりする。

★文字や数字、記号などに関心をもつ。

▲遊具を安全に扱おうとする。



●友達に声を掛けて一緒に取り組む楽しさを味わったり、力を合わせて取り組んだりしようとする。

●年下の子供に優しさや親しみの気持ちをもつ。

●▲自分たちで約束をつくり出す。

援助のポイント

- ◆ やってみたい気持ちが実現していくように環境を構成したり、約束を確認したりする
年長になった喜びから自分たちでやってみたいという気持ちが大きくなっているため、自分たちの生活を円滑に自信をもって進めていけるようにする。問題になったことはクラス内で取り上げ、必要感をもって話し合ったり共通理解したりしていく。自分たちで生活を進めていけるように当番活動として取り入れ、当番表を掲示したり、生活環境を整えていけるように表示したりする。
- ◆ 年下の子供のためにできることを見付け、行動に移していくきっかけをつくる
年下の子供が困っている様子などについて、気付いたことを知らせ合う場面を設ける。自分たちがこれまで年長児からしてもらったことを振り返り、自分たちにできることを具体的に考えていく。また、かかわったことで相手が泣きやむなど安心した姿を認めて、自信につながるようにしていく。
- ◆ 文字や数字、記号などへの関心を高めていく
物の片付け場所や当番表などの表示に文字や数字、記号などを用いることで、生活の中で身近に感じ、関心をもったり遊びに取り入れれたりするきっかけにしていく。

5歳児 Ⅱ期（6月～9月上旬）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な環境に触れ、自分なりの目的をもち、試したり、考えたりしながら遊ぶ。 友達とのつながりを深め、思いを伝えながら遊びを進める。 自分なりにめあてをもって、いろいろな遊びに繰り返し取り組む。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 夏野菜や草花の栽培を通して、生長の様子に関心をもち、よく見たり考えたりする。 身近な出来事に興味をもち、疑問に思ったことを保育者に聞いたり、調べたりする。 身近にあるいろいろな素材や材料の使い方が分かり、遊びに生かそうとする。 自分なりに楽しみながら砂や水、いろいろな素材の特性が分かり、利用して遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 自分の伝えたいことを言葉で伝える。 経験したこと、感じたこと、考えたことなどをみんなに分かるように言葉で伝えようとする。 物語や昔話などいろいろな絵本に親しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 素材の組み合わせを楽しみ、工夫して使う。 いろいろな楽器の使い方が分かり、友達と一緒に音を合わせる楽しさを感じる。 クラス全体での歌、手遊び、ダンスなどを通して、声や動きが合うことの心地よさを感じ、表現を楽しむ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> 友達と十分にかかわり、いろいろな遊びを進める。 友達と遊びを進めていく中で、イメージが共通になっていく楽しさを感じる。 相手に話を聞いてもらい、思いが受け止められたうれしさを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 自分とは違う友達の思いや考えを受け入れようとする。 分からないことなどを自分から聞いて、解決を図ろうとする。 友達に共感したり、自分の気持ちを伝えたりする。 小学校との交流を通して小学生と触れ合うことを楽しむ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 園生活のきまりやしてはいけないことの意味や大切さが分かり、自分たちで知らせ合ったり確認したりして守ろうとする。 友達と簡単な遊びのルールを確認したり、伝え合ったりして、ルールを意識して遊びを進めようとする。 危険なことを自分で判断し、遊んだり生活したりしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの使った遊具や保育室をきれいにしたり、共有の場をみんなで片付けたりする。 汗を拭く、衣服の調整、手洗い、うがいなどを、自分で気付いて行う。 1日の園生活に見通しをもち、状況を受け止めて自分なりに動こうとする。 栽培している植物の収穫を喜び、友達と一緒に何でも食べてみようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな運動に興味をもち、様々な体の動きを楽しむ。 水遊び、プール遊びなど季節ならではの遊びを通して、思い切り活動する充実感を味わう。 遊具や用具など安全に気を付けて遊ぶ。

＜指導例＞

◇ 野菜を育てよう

- 世話をしながら生長の変化に気付く。
- 野菜を収穫し、一緒に食べることを喜ぶ。

船を作ろう

水に浮くもの（スチレン皿、カップ類など）を選んだり、船を進ませるための動力（ゴム、息を吹く、風船など）を工夫したりして、動く船作りを楽しむ。

＜援助のポイント＞

- 子供たちが自分たちで考え、やってみたいと思えるような場を多く設定し、その中で自分の力を十分発揮できるように見守る。
- 子供同士の意見のぶつかり合いや葛藤を通して、相手の思いを理解し、子供が自分で乗り越えられるように励ましたり見守ったりして気持ちを支えていく。

＜家庭との連携＞

- 自分の力で生活を進められるように、園と家庭が共に励ましの言葉を掛けるなどして、温かく見守っていく。
- 子供同士の間で起こった出来事については丁寧に伝え、友達とのかかわりの中で経験していることや、そこで育つことについて理解し合い、見守っていく。

- ・世話をしながら生長の変化に気付く
- ・野菜を収穫し、一緒に食べることを喜ぶ

環境の構成

- ◆ 栽培しやすい植物を選び、収穫を楽しめるようにする。(トマト、ナス、ピーマン、キュウリなど)
- ◆ 自分たちの野菜として親しみをもてるように看板を作ったり、触れやすいようにしたりする。
- ◆ すすんで世話ができるようにじょうろなどを複数用意し、自由に使えるようにしておく。
- ◆ 関心が継続するように気付いたことを全体で話したり、図鑑で調べたり絵を描いたりする機会をつくる。
- ◆ 園内で調理活動を行ったり家庭でも食べる機会をつくったりし、収穫の喜びを感じたり食への関心を高めたりしていく。

子供の姿

「何の野菜の苗」

「この苗は何の野菜か分かるかな」と保育者が尋ねると「トマト」「キュウリだよ」と子供たちは口々に言う。苗に顔を近づけ「何かトマトみたいな匂いがする」と気付いたことを伝えるに来る。「そう、トマトがなるのよ」と伝えると、「知ってる。緑色なのにだんだん赤くなるんだよ」と今までの野菜の栽培について話をする子供もいる。「大きくなるといいね」と友達と話しながら苗植えを行う。

「下は緑だね」

畑に水やりに行った子供が「先生、トマトが赤くなってきた」とうれしそうに伝えに来る。保育者も見に行き「食べられそうかな」と聞くと「まだ。だって下の方がまだ緑色だもん」と答える。保育者ものぞき「ほんとだ。まだ緑だね。でもどうして下だけ緑なのかな」とつぶやく。

水やりを終えて保育室に戻ると置いてあった植物の本を見付け、友達同士で見始める。しばらくすると「先生分かった。太陽で赤くなるんだって」「だからか。上は赤かったもんね。太陽は下に当たらないもんね」と納得した様子で話し合う。

「トマトが食べられた」

たくさんのミニトマトが収穫でき、みんなで食べることになる。一つずつ配り食べ始めると「私、トマト食べられない」とM児がつぶやく。それを聞いた子供が「え、Mちゃんトマト嫌いなの。おいしいよ」と言う。周囲の子供たちも「おいしいから食べてごらんよ」「私も初めは嫌いだったけど食べられるようになったよ」と声を掛ける。M児が思い切って口に入れ「おいしい」と言う。「すごい。食べられたね」「みんなで育てたトマトはおいしいんだよね」と周囲の子供がM児に声を掛け、M児も笑い、うなずく。

経験している内容

- ★学びの芽生え
- 人とのかかわり
- ▲生活習慣・運動

★不思議に感じたことを本などで調べて分かる楽しさを味わう。

★栽培した経験を思い出し、変化を想像しながら、生長を楽しむにする。

★葉の形や色、匂いなどの特徴に気付く。



●同じ物を一緒に食べることを楽しむ。

●友達と一緒に世話をすることで共に生長を楽しみにする。

▲食べ物と健康がつながっていることを知り、何でも食べられるようになることを喜ぶ。

援助のポイント

- ◆ **子供の知っている知識や情報を生かし、関心を継続させていく**
世話をしながら気付いたことや今までの経験で知っていることを取り上げてクラス内で伝え合い、みんなで生長に喜びを感じたり期待をもったりしていく。
- ◆ **図鑑や本などを用意しておく**
子供の気付いたことに保育者も関心を寄せ、一緒に驚いたり不思議さに共感したりする。また、それらのことを誰もが調べられるようにすることで、分かったことの喜びを共有できるようにする。
- ◆ **食に対する関心がもてるようにする**
野菜の収穫や調理活動、みんなで食事をする機会などを通して、食への関心や期待を高めていく。また、野菜のもつ栄養や食べ物と体の関連についても話をするなど、自分の体や健康が食事とつながっていることに関心をもてるようにする。

5歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな活動を通して、すすんで物事に取り組む楽しさや達成感を味わう。 ・みんなでする活動を楽しみながら、友達のよさに気づき、様々な友達への親しみを広げる。 ・自分の目的に向かって力を出すことの心地よさを感じ、十分に体を動かして遊ぶ。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要な物の数、人数、適当な大きさ、長さ、バランスを考えて活動する。 ・遊びに使う簡単な標識や文字、数字に興味をもったり読んだりする。 ・遊びの中で数を数える、量を比べる、いろいろな図形に関心をもつなどする。 ・用途に合った素材を選んで使い、遊びに生かす。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験したことを話したり、友達の話を聞いたりする。 ・経験したこと、感じたこと、考えたことなどをみんなに分かる言葉で伝える。 ・話の内容を理解し、言葉の使い方、楽しさ、心地よさに気付く。 ・物語や話の続きに興味をもち、クラスの友達と楽しんで聞く。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・動きや体を意識した表現を楽しむ。 ・経験したこと、感じたこと、考えたこと、イメージしたことなどを、様々な方法で自分なりに表現する。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合いながら、自分たちで遊びを進めていく。 ・クラスや同年齢の友達、保育者と一緒に、目的に向かって役割を感じながら活動を進め、気持ちを合わせる心地よさややり遂げた満足感を味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと相手の考えの違いに気づき、受け入れようとする。 ・自分の力を発揮し、友達のよさに気付いたり認めたりしながら遊ぶ。 ・自分の身近な人（高齢者、年下の子供、地域の人など）とのかかわりを通して、相手を思う気持ちをもつ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール必要性や危険なことについて分かり、意識して行動する。 ・自分の行動の結果を、自分なりに考える。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・所持品の整理や片付けをすすんで行う。 ・健康な生活、食事の大切さなどを知り、自分の体への関心をもつ。 ・1日の園生活の流れを予測したり、見通したりして状況に応じて行動する。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動遊びにすすんで取り組み、体を十分に動かして遊ぶ心地よさを味わう。 ・遊びのルールを確かめたり工夫したりして、友達と一緒に集団での遊びを楽しむ。 ・ルールのある遊びを通し、チームで競い合うことを繰り返し楽しむ。

＜指導例＞

◇ 絵本って、楽しいね

本の読み聞かせを通して、お話や文字に興味をもつ。

◇ みんなでつくる運動会

運動会を自分たちで考え、進めていく気持ちをもつ。

割りピン人形を作ろう

体を動かして遊ぶことを楽しんでいる姿を生かし、関節部分に割りピンを使って体の動きを再現できるような人形を作る。運動会の場面を再現した壁面構成などを考え、人形の動きが生かされる掲示の仕方を工夫する。

＜援助のポイント＞

- ・いろいろな活動の中で、子供の挑戦しようとする気持ちを受け止め、目的が明確にもてるようにする。それぞれの頑張る姿をクラスの子供に知らせ、よさに気付かせるとともに、みんなで喜び合う気持ちを高めていく。
- ・友達とのかかわりの中で互いの思いを理解できるように、相手の言葉や表情、行動に自分から関心を向けられるようにする。

＜家庭との連携＞

- ・クラスだよりや保護者会などを通して、目的に向かって自分の力を発揮して取り組んでいく過程を伝え、日々の保育や行事などの様子から、子供の成長を理解し喜びを感じてもらえるようにする。
- ・体を動かすことで様々な意欲が引き出されることを伝え、子供の伸びようとする力を園と家庭の両方で生かしていく。

環境の構成

- ◆ 降園時や弁当前などに、子供が落ち着いてお話を聞くことのできる雰囲気をつくり、保育者が絵本や物語を読み聞かせる。
- ◆ 継続したお話のときは、読んだ部分や話のシンボルとなる絵などを壁面に貼っておき、子供が内容や場面を思い出したり、次にどのようなようになるのかを想像したりしてお話の世界を楽しめるようにしておく。

子供の姿

「続きはどうなるのかな」

降園時、保育者がお話の続きを読もうと幼児の前に座ると、「昨日の続き」「どうなるんだろう」「うまく探検が続けられると思うよ」「でも、動物に食べられちゃうかもしれないよ」などと、話を想像して楽しみにしている。保育者が童話を読み始めると、「わぁ、ドキドキする」「あぁ、よかった」など、感じたことを近くにいる友達と話したり、主人公の気持ちに共感しながら聞いたりしている。

「家でも読もう」

絵本を家庭でも親しめるように、週末に絵本を借りて帰る取組を行う。子供が好きな本を借りて帰るために選んでいると「あっ、先生が読んでくれた本だ。これがいい」「僕も借りようと思ったのに」と、読んでもらった本を再び読みたいと借りていく子供が多い。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★保育者が読んでくれる本のストーリーに興味をもって聞く。



★●絵本を読んでもらい、感じたことを友達と話し、思ったことを共感する楽しさを感じる。

★本のストーリーの続きを想像する。

★読んでもらった絵本を自分でも手に取って見てみようとする。

援助のポイント

- ◆ **子供が絵本や文字に興味をもち、自分から見てみたいという気持ちになるようにする**
教師が読み聞かせをした絵本や言葉遊びの本などを置いておき、本を見て文字の拾い読みをしたり、言葉遊びをしたりして、自分なりのペースで絵本のお話や文字に興味をもって楽しめるようにする。また絵本の貸し出し日には、借りやすいようにそろえておく。
- ◆ **保護者に、絵本を読み聞かせをしている様子や本の題名を伝える**
クラス日より、絵本日よりなどの配布物を工夫したり、降園時に伝えたりするなど、絵本を読んでいるときのクラスの様子、個々の子供の姿を伝え、絵本の読み聞かせの大切さについて保護者への理解を高める。また、絵本の題名を知らせることで、家庭でも絵本を子供に読み聞かせるなど、親子が一緒に楽しみ、絵本に親しむきっかけをつくる。

環境の構成

- ◆ 「今年は自分たちの運動会」という気持ちで取り組めるように、昨年の運動会のビデオや写真などから今年も経験させたいと思っている場面を取り上げてみんなで見る機会をつくり、係活動や競技などに興味をもたせる。また、運動会までの見通しをもてるように、予定表やカレンダーなどを保育室に掲示する。
- ◆ 自分の動きを意識するとともに、友達と動きをそろえることの心地よさや達成感をもてるような場面を設定する。また、見てもらうことを意識しながら取り組めるようにする。
- ◆ それまでの取組の中で、運動会につながるような競技を遊びの中で取り入れるなどして興味をもたせておく。勝敗が分かりやすい競技を工夫したり、ルールを明確にしたりすることで、子供自身が勝敗やルールを意識できるようにしながら、力を発揮して競うことを楽しめるようにする。

子供の姿

昨年の5歳児の姿を見て、係の仕事や、5歳児の取り組んだ競技のことを思い出して、「リレーはすごかったね」「私もやってみたいな」などつぶやく子供がいる。子供の声を受け止めた上で今年の運動会でしたいことを出し合う時間をつくる。競技の内容や、係のことなどいろいろな意見を受け止め「自分たちで考えた運動会をする」という気持ちを盛り上げる。

- ◆ 子供の気持ちや考えを取り入れながら保育者が決めること（競技種目や内容）と、子供が自分たちで決められること（係の仕事内容や分担）を整理して伝え、子供が決められる「係の分担」について全体で話し合う。どの係も運動会を進めていくために必要な仕事であることを伝え、希望が偏った時にも話し合いで分担できるように助言する。
- ◆ 決まった係と係の子供の名前を紙に書き、自分の仕事や一緒に取り組む仲間を意識できるように、取組の予定とともに保育室に掲示する。

係の分担が決まり、同じ係の友達が集まってどのように進めていくか相談している。

「はじめの言葉」の係は、自分の頑張りたい競技のことをそれぞれが言うことになる。

「ぼく、リレーのことを言うよ」「私もリレーにしたい」と意見が重なったり、「小さいお友達のこととも言う人がいなくちゃ」「最後まで応援してください」も言った方がいいよね」と言葉の内容について気付いたことを言ったりする。言葉の内容や分担が決まると、いろいろな職員に聞いてもらい、自信をもって言えるようになっていく。

経験している内容

★学びの芽生え ●人のかかわり ▲生活習慣・運動

- ▲いろいろな運動遊びに興味をもつ。
- 昨年の5歳児の姿に憧れの気持ちを持ち、自分もやってみたいと感じる。

- ★運動会を進めるために必要な言葉や司会の言葉を考えたり表現したりする。
- 友達のことを聞いて、受け止める。
- ★自分のすることが分かって、それに合った考えを相手に分かるように話す。
- 友達と協力して取り組み、やり遂げた満足感を味わう。



- ◆ クラス全体で取り組むリズム表現は、力強い動きや、動きがそろそろ気持ちよさを味わえるような内容の題材を選択する。基本的な動きを覚え、個々が踊ることを楽しめるようになった頃、全体としての動きを意識できるように、クラスを半分に分けて見合う時間をつくったり、全体が踊っているところをビデオで撮影し、自分たちの動きを客観的に見る機会をつくったりする。

友達と見合ったり、ビデオを見たりすることを通して、横の移動や手の動きがそろそろきれいに見えることに気付く。「みんなが右から動けばいいんだ」と気付き、右から動くことにする。保育者は右手用のリストバンドを用意し、右を意識できるように工夫する。動きがそろってきたところで保育者が再度ビデオを撮影し全員で見る。「みんなそろったね」「右から動くといいね」と自分たちの動きを確かめ、動きがそろそろ楽しさを感じる。

- ★左右を意識して動く。
- 友達と動きのそろそろ心地よさを感じ、気持ちを合わせて取り組む。
- ▲全体の動きを意識し、個々に動きを十分楽しむ。



- ◆ 好きな遊びの中でも取り組んできたリレーは、遊び方やチームで競うことはクラス全体で共通になっている。運動会に向けては、走力がほぼ均一になるように、保育者がクラスの人数を考慮して2、3チームに分けておく。

クラスの全員で数回リレーをする。どうしても勝てない青チームのN児とO児が、「バトンを落としたから負けたんだ」「バトンをしっかり受け取らないのがいけない」とけんかになる。すると黄色チームの子供が「私たちだってバトンを落とした人がいたけど、後のみんなが頑張ったから勝てたよ」と言う。そこで保育者は「一生懸命頑張っているけれど、落としてしまうこともあるね。みんなの力を合わせてできることはないかな」と青チームの子供たちに助言し、見守る。P児が「バトンを渡す練習をしようよ。みんなでやったらできるよ」と言い、相手を意識してバトンの受け渡しをする練習が始まる。徐々にチームの気持ちがまとまっていく。

- ▲いろいろな運動遊びにすすんで取り組み、思い切り自分の力を出す心地よさを味わう。
- ▲遊びのルールを確かめたり工夫したりして、友達と一緒に集団での遊びを楽しむ。
- 友達と競い合う中で、自分の力を発揮したり、友達のよさを感じたりする。



援助のポイント

- ◆ **係の活動を通して、役割を果たすことで自信をもてるようにする**
運動会を進めていくのに必要な係を自分たちが担うことで、自分たちの運動会という気持ちをもたせ、年長として園全体をリードする気持ちを育てていく。子供の発想を生かして取り組めるようにし、取組が認められたことを感じられる機会を設けていく。
- ◆ **友達と動きや気持ちがそろそろことを実感させることで、クラスとしての一体感をもたせていく**
一人一人がめあてをもって取り組むこととともに、友達の存在をしっかりと意識できるようにしていく。競う競技では、チームの勝利に向けて自分の力を出すことや、一人一人が頑張った力が集まるから勝てることを意識させていく。表現などの取組では、ビデオなどで客観的に自分の動きを確認し、みんなとそろそろ気持ちよさや、かっこいいところを見てもらいたいという気持ちを高めていく。一人ではできないことに取り組む中で、自分にとって友達の存在が大切であり、友達にとっても自分の存在が大切であると感じられるような関係づくりを心掛けていく。

5歳児 IV期（11～12月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や事象を見たり触れたりしながら、好奇心や探究心を深める。 共通の目的に向かって、工夫や協力、分担などをしながら遊びに取り組み、達成感を味わう。 チームで競い合う楽しさを味わいながら、十分に体を動かして遊ぶ。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 遊びに応じて、必要な表示を考えたり文字や数字を積極的に取り入れたりする。 今までに経験した遊び方や遊具、素材などを遊びに取り入れる。 友達の意見や考えに刺激を受け、自分なりに考えようとする。 季節の変化に関心を持ち、遊びに取り入れたり調べたりする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 理由を添えたり新しい提案をしたりして、自分の考えを分かってもらえるように話す。 友達の話の内容を理解しようと、関心をもって聞く。 生活の場に応じた言葉の使い方や表現の仕方が分かる。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 自分が表現したいことを材料や方法を選び、工夫して作ることを楽しむ。 絵本や物語に親しみを持ち、想像を豊かにして表現する楽しさを味わう。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> グループの友達と共通の目的に向けて遊ぶ中で、一緒に進めていく楽しさや、やり遂げた満足感を味わう。 友達と考えを出し合って工夫することで、遊びがより面白くなることを十分に味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと相手の考えの違いに気付き、折り合いを付けて進めようとする。 友達の中で、自分の力を発揮していく。 友達のよさに気付いたり認めたりしながら、遊びを楽しむ。 相手の立場に立って、考えたり行動したりしようとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> よいことや悪いことを自分で考えて行動する。 活動に合わせてルールを考えたり変えたりしながら、それを守って進める。 その時にすべきことが分かり、自分から行動する。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 所持品の整理や片付けをすすんで行う。 共同のものの片付けの必要性を感じ、自分から片付けようとする。 1日の園生活の流れに見通しを持ち、友達と声を掛け合って行動する。 健康な生活や病気の予防に関心を持ち、意識して行動する。 交通ルールや公共のマナーを知り、気を付けて行動する。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな運動遊びにすすんで取り組み、体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう。 遊具や用具、遊びに使う場所など安全に気を付けて遊ぶ。

＜指導例＞

◇ 投げごまを回そう

めあてをもって、繰り返しあきらめずに取り組む。

小学校に行って1年生と一緒に秋遊びをしよう

小学校の教育活動に参加して「ひと・もの・こと」に慣れ、親しむ。

(就学前教育プログラムP.18、19「1年生と一緒に秋遊びをしよう」参照)

＜援助のポイント＞

- グループでの取組の中で一人一人が十分に自己を発揮し、互いのよさや考えに触れて協同して遊べるような機会を意図的に設定する。
- 少し難しいことに向き合い、友達と一緒に工夫して乗り越えていく機会を意図的に作り、達成感を重ねられるようにする。
- 思いや考えの違いに気付き、グループの友達と折り合いを付けながら遊びを進めていくことができるように援助していく。

＜家庭との連携＞

- グループの友達との活動を通して協同性が生まれ、小学校での生活や学習の基礎になることを伝えるとともに、自分の子供やクラスへの理解が深まるようにする。
- 就学に向けて生活習慣などを園と家庭で見直していく機会をつくり、家庭でも意識をもって生活してもらえるようにする。

めあてをもって、繰り返しあきらめずに取り組む

環境の構成

- ◆ 自分のこまに愛着をもち、自ら取り組む気持ちや、色塗りなどの工夫を自分なりにできるように、こまは一人一人に準備する。
- ◆ 「みんなが回せるようになったらクラスでこま回し大会をする」などの目標を立て、全員で目標に向かって取り組んでいく雰囲気をつくる。
- ◆ 色を塗ると回したときに色が変化することなどに気付くように、マジックやテープなどを用意しておく。こまを回す場の工夫や技への挑戦なども楽しめるように積木などの身近な遊具を取り入れて子供と一緒に設定し、繰り返し取り組めるようにする。

子供の姿

Q児は投げごまを見ると「やってみたい」とひもを巻き始める。ひもはすぐにほどけてしまい、うまく巻くことができない。保育者が巻く手の動きを見せたり手を取って力の加減を調節したりしてコツを知らせていくと、少しずつ巻くことが上手になっていく。

保育者や友達の投げる動きをよく見て取り組むうちに、回すことができる。「やったあ。回せたよ」と歓声を上げる。その後、こまに色を付け、友達と一緒に色や模様の変化を楽しむ。

繰り返し取り組む中で、練習している友達に「もう少し引っ張りながら巻くんだよ」「投げるときは手をまっすぐだよ」と、自分の経験を生かしてやり方を伝えている。友達が回せるようになると「先生、Rちゃんも回せるようになったよ」と自分のことのように喜んで報告に来る。

安定して回せるようになると、友達と一緒に「こま勝負をしよう」と対決したり、フープや机、積木などでこま回しの場を作ったりして、いろいろな場で回したりいろいろな技に挑戦したりすることも楽しむようになる。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★回す場によって回り方の違いを感じたり、自分で回す場をつくったり工夫したりして、その違いを楽しむ。

★色を塗ったりテープを貼ったりすることで色が変化することに気付き、試す。

★技を考えたり挑戦したりすることを楽しむ。

▲手や指の力の加減を調整して、こまのひもを巻く。



▲ねらいを定めて、タイミングよくこまを投げ、回す。

●保育者や友達に教わったりまねたりしながら、繰り返し取り組む。

●友達と回せるようになったうれしさを共感し、一緒に回したり、競ったりすることを楽しむ。

●同じ目的の友達と一緒に、頑張ることができるように挑戦する。

援助のポイント

◆ ひもを巻くコツを、個々が感じて取り組めるようにする

保育者の手の動きや回せるようになった友達のやり方を見せたり、手を取って一緒に巻いたりしながら、子供自身が力の加減を調整できるように個別にかかわるようにする。

◆ 回せるようになったことを共に喜び合う雰囲気をつくる

「〇〇さん回せたね。おめでとう」などと、クラスの中でできるようになった子供を認めたり、友達同士で繰り返し挑戦したり、教え合ったりできるような環境をつくる。「みんなですぐできた」ことを喜び合うクラスの雰囲気を高めていく。

◆ こま回しの楽しさを感じられるように、回す場や回ったときの変化を楽しめる設定を工夫する

積木やフープなどを用いて回す場を少しずつ難しくしたり、友達と競ったりするなど、こまを回すことで友達とのかかわりが深まっていくようにする。また、色付けなどをすることでその変化に気付いたり、楽しんだりできるようにする。

5歳児 V期（1月～3月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや考えを様々な方法で表現し、いろいろな活動に楽しんで取り組む。 ・友達と共に過ごす喜びを味わい、自分たちで遊びや生活を進め、充実感を味わう。 ・自分の体に関心を持ち、心身の成長を喜び合い、就学への期待をもつ。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物や自然現象に関心を持ち、考えたり試したりして自然を取り入れて遊ぶ。 ・身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりして遊びに取り入れる。 ・日常生活に必要な文字や数字、標識などに興味や関心を持ち、遊びの中ですすんで使う。 ・小学校での授業の体験などを通して、入学への期待をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・見る、聞く、感じる、考えるなどの経験を、自分なりの言葉で十分に表現する。 ・誰とでもすすんで挨拶を交わしたり、お礼の気持ちを言葉で伝えたりする。 ・話している人に気持ちを向け、自分の経験と重ね合わせながら、関心をもって話を聞く。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の様々なものに自分からかかわり、いろいろな方法で伸び伸びと表現することを楽しむ。 ・みんなで気持ちを合わせ、歌や踊り、劇や楽器の演奏などをする。 ・友達と一緒に共通の目的を持ち、遊びの場や必要なものを作ったり描いたりする。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスや学年の友達とみんなでする楽しさが分かり、友達との連帯感を感じながら自分の力を発揮する。 ・自分たちで遊びや生活を進める充実感を味わう。 ・共通の目的や課題に向かって、友達と一緒に力を合わせてやり遂げる喜びを味わう。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感じたことや考えたことを友達に分かるように伝え、友達の話聞いて受け止める。 ・友達の得意な面やよさに気付き、生かし合って遊ぼうとする。 ・小学校との交流などを通して小学生と触れ合い、小学校を身近に感じる。 ・自分のことを認めてもらう経験を通して、自信をもって行動する。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで考えたルールを守って友達と一緒に遊ぶ。 ・今は何をすべきかを自分なりに判断し、状況に応じた行動をしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの整理や片付けの必要性が分かり、協力してすすんで行く。 ・時間を意識しながら生活に見通しを持ち、場や状況に応じた行動をとる。 ・交通ルールが分かり、守って行動する。 ・行事や経験を通して、伝統的な日本の食文化に関心をもつ。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と積極的に体を動かす運動に取り組み、競い合う楽しさや、ルールをつくってみんなで遊ぶ充実感を味わう。 ・運動用具の使い方が分かり、活用したり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。 ・危険な遊び方や場所に気付き、自分で判断して安全に行動しようとする。

<指導例>

◇ 集まってドッジボールをしよう

様々な友達の中で、自分の力を発揮して遊ぶ充実感を味わう。

◇ 友達と一緒に、劇をつくっていこう

同じ目的に向かって友達と相談したり、力を合わせたりしながら活動に取り組む。

小学生と一緒に作品作りをしよう

小学生と協力して作品作りを行うことを通して一緒に表現することを楽しむ。
(就学前教育プログラムP.22、23「みんなで力を合わせて“なかよしタワー”の飾り付けをしよう」参照)

<援助のポイント>

- ・友達と互いのよさを生かし合いながら、試したり、発見したり、考えたりする楽しさを味わい、自分たちで取り組んだ充実感を十分に味わえるようにする。
- ・生活の中で十分に自己発揮をしている姿を認め自信につながるようにかかわる。
- ・様々な友達とかかわる中で、それぞれが成長したことを認め合い、自信がもてるようにする。
- ・就学に向けて期待が膨らむ思いを十分に受け止め、小学校入学への期待感をもてるようにする。

<家庭との連携>

- ・保護者会などで、小学校の生活や学習について具体的に伝える機会を持ち、入学に向けて不安や疑問を解消できるようにする。
- ・具体的な場面を通して子供の成長を喜び合い、入学への期待につなげていく。

環境の構成

- ◆ ドッジボールは1学期から楽しんできた遊びである。修了が近付き、様々な課題活動がある中で、短時間でも自分たちで遊びを進め、友達と遊ぶ満足感が味わえるように、ドッジボールのコートは常設しておく。
- ◆ 自分たちで見通しをもって活動できるように、全員に1日の予定を絵や文字で掲示しておく。
- ◆ 4歳児と5歳児が自然な形で一緒に過ごし、遊びや生活（当番活動など）を引き継いでいけるように、4歳児の担任と連携を図り、活動の内容や時間、場所などを共通理解しておく。

子供の姿

「人数をそろえて」

クラスでの活動が終わり、「ドッジボールする者、この指止まれ」と1人の子供が言うと、7人が集まる。「人数が合わないよ」「じゃあ、○組の人を呼んでくる」と隣のクラスに誘いに行く。人数が偶数になると、グーパーやジャンケンなどでチームを分ける。

ゲームの途中で入る子供には、近くにいる子供が「誰か呼んできて」と伝え、新しい仲間が入ると「Sちゃん入ったよ」「OK」などと伝え合いながらゲームが進む。

「ナイス」「どんまい」

ゲームの中で、同じチームの友達が相手チームに当てると「Tくん、ナイス」とハイタッチをして喜び合う。また、当てられたチームは「惜しかったよ」「そういうのはドンマイ、っていうんだよ」と励まし合いながら、ゲームが進む。

途中で入ってきた4歳児には、遊び方やルールを優しい口調で伝えている。遊びながら4歳児のことを気に掛け「当たったらこっちに行くんだよ」と知らせる姿が見られる。4歳児はなかなかボールに触れないが、5歳児と一緒に逃げてうれしそうにする。

「ずるいよ」

ゲームの途中で、ボールが両陣地の線上で取り合いになる。どちらも譲らない。「先にこっちに入った」「ずるいよ。先とかなしだよ」とけんかになる。なかなかゲームが再開しないので、子供たちが集まってくる。「いつまでもけんかをしてたら時間がなくなる」「早くやろうよ」という意見が多くなる。ボールを取り合っていた二人は、納得してジャンケンをし、ゲームが再開する。

時間を気に掛けている子供が「もう長い針が5だから終わりだよ」と声を掛ける。「また明日もできるよ」と言いながら、自分たちでボールを片付けて保育室に戻る。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★人数を意識し、そろえる方法を考え、実行する。

▲時間や生活の流れを意識し、見通しをもって行動する。

▲力いっぱい活動し、チームで競い合うことを楽しむ。



★●年下の子供に合わせて話をしたり、相手が分かるように教えようとしたりする。

●友達と声を掛け合い、一緒に遊びや生活を進める充実感を味わう。

▲投げる、捕る、走る、かわすなど様々な体を動かす。

援助のポイント

◆ 様々な友達の中で力を発揮し、一緒に遊びを進められるようにする

共通のルールの下で、他のクラスや、異年齢の友達と集って遊ぶ機会や時間を保障する。気の合う友達だけではなく、様々な人の中で力を発揮し共に活動を進めることは、小学校での生活への自信につながっていく。保育者は、一人一人の参加の仕方を把握するとともに、状況に応じて自分たちで進めていく姿を十分に認めていく。また、仲間の一員となり楽しさを共感することも大切である。

◆ 生活に見通しをもって活動できるようにする

一人一人が興味をもって、日や週の見通しが分かって行動できるように、表示を工夫する。友達同士で声を掛け合って行動することを十分に認め、自分たちで生活を進めている充実感を意識付け、成長した喜びや就学への期待につなげていく。

同じ目的に向かって友達と相談したり、力を合わせたりしながら活動に取り組む

環境の構成

- ◆ 共通の目的に向かって互いの思いやイメージを伝え合い、共感することができるように、話し合いを行う時間を十分に保障する。互いの意見が伝わりやすく集中できるような話し合いの場を工夫する。
- ◆ 仲間に認められたりクラスの友達のよさを感じたりしながらみんなで取り組む楽しさを共感できるように、相談して決まったことを発表したり見合ったりする場を設ける。
- ◆ イメージしたことを表現する方法を試したり工夫したりしながら実現できるように、必要な材料や今まで経験した物を用意し、子供自身が選んだり組み合わせたりしながら活動に取り入れていくように準備しておく。

子供の姿

発表会の出し物で劇をすることが決まり、劇遊びの時間にいろいろな役になってみることで、やってみたい役を考えたり、役の面白さを感じ始めたりしている。

へび役の子供たち4人が登場の仕方について話し合う。U児は「並んで長くなる」、V児は「ばらばらの方がいい」、W児は「本当のへびはこうだよ」と個々にイメージを伝える。しかし、なかなか意見がまとまらないため、保育者がU児に「それはどのように動くの」と聞いてみる。すると「こうやるの」とV児、W児、X児を並べ、自分が先頭になり一列になってやってみる。すると他の子供も「僕のはこうやるんだよ」と動きながら伝え合う。

実際に出されたイメージの動きをみんなでやってみると、「一緒にやると面白かった」という感想が多く、「並んで長くなる」というU児の表現に決まる。

- ◆ 保育者はへびの表現の方法が決まったので他の役の友達に見てもらふことを提案する。他の役の子供たちに「へび役のみんなが相談して、こんなやり方に決まったよ」と伝える。見た子供たちから「いいと思う」「みんなでやっていて面白い」「長くてへびらしかった」などの感想が出る。それを聞いた役の子供たちは、「いいって言ってくれてうれしかった」と見ってもらった反応を受け止め、役の友達と喜び合う。保育者も「みんなでいろいろやってみて決めてよかったね」と声を掛ける。みんなに認められた喜びから、その後も同じメンバーがへび役を選び、一緒に演じることを楽しむ。

へび役の子供たちで集まったある日、V児が「みんなでこうやってみるのはどう」と、並んだ列の前から体を順番に動かしてみようことを提案する。やってみるとクネクネした動きに感じたようで、U児は「へびもそうや

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

- ★役の動物についてのイメージや自分の知っていることを話す。
- ★役の動きをイメージすることを楽しむ。
- ★そのものらしい動きをしようと、イメージしたことを体を動かして表現する。
- ★●自分の意見を相手に分かる方法で伝えようとする。
- ★●友達と自分の意見を調整しまとめていく。
- ★●共通の目的に向かって同じ思いで取り組む楽しさを感じる。



- ★よりへびらしい表現になるように工夫し、動いてみる。

って動くよね」、X児は「そうだね」と役の仲間に受け入れられる。それを見ていた他の役の子供が「それ、面白いね」と声を掛けると、「V君が考えたんだよ」とW児が笑顔で返し、へびらしい動きを楽しむ。

他の役の子供たちが役に必要な大道具や小道具を作り始めたことに気づき、「へびは草のあるところにいるから草を作りたい」と保育者に伝えに来る。そこで「何で作る」と尋ねると、W児が「前に段ボールで作ったことがあるから段ボールがいい」と言う。すると他の幼児も「そうだね」「段ボールでいいと思う」とW児の意見に賛成する。

- ★●友達のよさを言葉で認める。
- 友達の考えを受け入れ、一緒に取り組みながら楽しさを共感する。
- 認められたことを喜び、自信をもつ。

★へびについて知っていることを伝え合い、取り入れる。

★今までの経験から劇遊びに必要なものを考える。

- ◆ 素材の置いてある所で、自分たちのイメージに合う物を探し始める。あれこれ手に取りながら相談していたが、「これにしよう」と大きな段ボールを持って行く。「それに決めたの」と保育者が聞くと「これだったら隠れられるから」と自分たちの前に段ボールを掲げ、隠れて見せる。

段ボールに草の形を描きながら「隠れて出てきたらびっくりするんじゃない」「そうだね」「それから草だから緑に塗ろうよ」「いいね」と思い付いたことを伝え、受け入れ合いながら作業が進んでいく。

★お話に合わせてイメージを膨らませていくことを楽しむ。

★草らしくするための方法を考える。

●イメージしたことを友達と共感しながら実現することを楽しむ。

援助のポイント

◆ 共通の目的に向かって意見がまとまる楽しさを味わえるようにする

一人一人が思いを出し合って話し合いを進めているかを把握しながら、保育者は見守っていく。意見をまとめていく過程で子供たちが調整している言動を、保育者が具体的に言葉に表して整理しながら、友達のよさや、協力する大切さを伝えていく。また、それぞれの意見が生かされたり、対立しても折り合いを付けたりすることで、よりよくなることを実感できるようにする。そのためには話し合いの場や時間を十分に保障していく。

◆ みんなで取り組んだ喜びや達成感を味わえるようにする

グループ内やクラス内で決まったことを見合う場を設け、同じ目的に向かって取り組んできたことが形となっていくことや、見ている人たちに認められたり楽しんでもらえたりしたことが感じられるようにする。一緒に力を合わせて取り組んできたことや目的が達成されたことの喜びを共感できるようにする。

◆ 友達と一緒に表現する楽しさを味わえるようにする

子供が役になりきってそのものらしく表現する中で、言葉や動きを楽しんだり工夫したりしている点を取り上げ、よさが伝わり合うようにする。また、友達と一緒にだからこそできる楽しさを十分に認め、協力する意欲や充実感を高めていく。

教材や素材、今まで経験した物や方法などを用いて、友達と一緒に劇遊びに必要な物を工夫して作ることで、よりそのものらしく表現できる楽しさも味わえるようにする。そのため、予想される教材を用意したり、イメージに見合った物を提示したりする。